

# ひびき

教育目標「なかよく かしこく たくましく」

一人一人が大切にされる学校・風通しのよい学校—  
多治見市立共栄小学校 R6.11.30

## 1人1台のタブレット端末は、次のステージへ！ —子どもたちに付けたい力を見据えた活用をめざしていきます—

共栄小学校長 加藤 隆史

GIGA スクール構想により1人1台端末の環境が整いました。タブレット端末をノートや鉛筆のような当たり前の学習ツールとして子どもたちが活用する姿をめざして本校でもさまざまな取り組みを行ってきました。今後は「タブレット端末に慣れ親しむ」ステージから、新たなステージに向けた取り組みを行っていくことが求められます。新たなステージとは「子どもたちが身に付けるべき力を見据えた活用」をしていくことです。

そこで今後、本校で大切にしていきたいのは、「自己調整力」を身に付けるためのタブレット端末の活用という考え方です。自己調整力とは、子どもたち自身が学び方などをコントロールしながら目標を達成していく力です。子どもたちは、

社会に出たら、決められた期間にどんな手順で仕事を進めていくのかを自分で判断して行動していかななくてはなりません。一方、学校では、先生の指示によって授業や様々な活動が進められています。もちろんこれらは必要なことも多くあり、すべてを無くすわけではありません。しかし、子どもたちが社会に出たとき、自ら主体的に動けるようになるには、小学校のときから、子どもたち自身が自らの学びや行動を調整していくことができる力（自己調整力）を発達段階に合わせて、育むことが大切です。

そこで本校では自己調整力を育むための授業改善に算数を中心に取り組み始めました。「学び方や目標を自分で決める」「それをもとに学習を自分で進める」「学習内容とともに学習方法についても振り返る」という3つのプロセスを意識して授業を行います。中でも、自分の学び方を振り返ることが大切です。自分で決めた学びを振り返り、うまくいったことやいかなかったことの原因や理由を探り、その後の学習に生かしていくことができるのです。

こうした学習において、1人1台のタブレット端末は有効に活用できます。そのためには私たち教師がこれまでの授業スタイルを見直すこと、子どもたちがそこに向かえる情報活用能力を身に付けることなど課題もありますが、子どもたちとともに私たち教師も挑戦していけたらと考えています。



6年生の算数では、自分の到達目標や「一人で進める」「仲間と進める」など自らの学び方を選択し、その振り返りをタブレット内のスプレッドシートに書き込みながら学習を進めています。これにより、自らの進捗状況をつかめるだけでなく仲間の状況や考えも知ることができます。

### 絵本を寄贈していただきました！

本校保護者の與語美幸様より絵本「さっちゃんのまほうのて(たばたせいいち、先天性四肢障害児父母の会、のべあきこ、しざわさよこ共同制作)」をいただきました。「ひとりひとりがちがっていい」ということに気づかせてくれる素敵な絵本です。大切にみんなで読みたいと思います。ありがとうございました。

